

学生アンケート

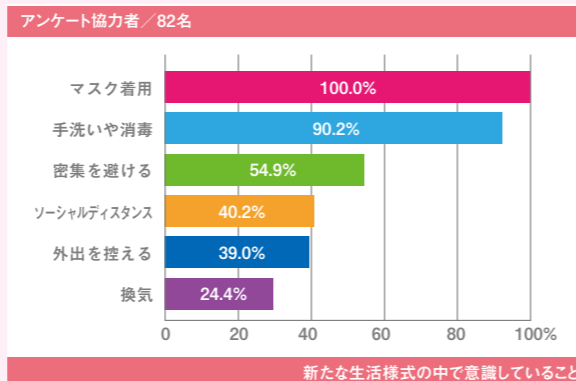
シリーズでお届けしている今回は、新たな生活様式の中での気を付けていることや、生活の中での影響について聞いてみました。

アンケートを行ったのは、対面式講義授業が始まる前の9月末～10月の初めです。こちらの都合で2～4年生にアンケートの協力を依頼しました。



① 新たな生活様式の中でどのようなことを意識していますか。(複数回答)

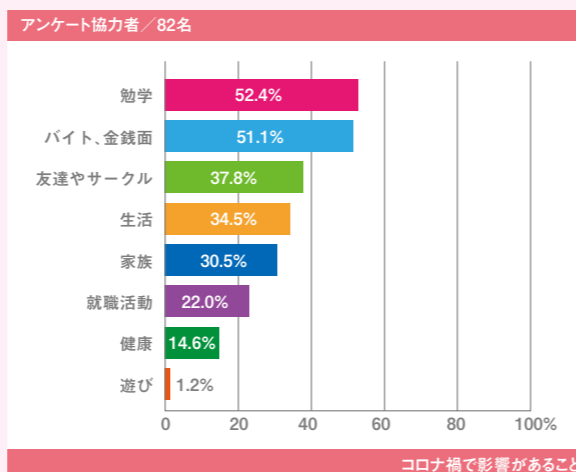
- 1 マスクの着用 100.0%
- 2 手洗いや消毒 90.2%
- 3 密集を避ける 54.9%
- 4 ソーシャルディスタンス 40.2%
- 5 外出を控える 39.0%
- 6 換気 24.4%



② コロナ禍のなかで、どのようなところに影響が出ていますか。(3つまで)

- 1 勉学 52.4%
◆技術演習などが十分できない、勉強できる場所が限られており少ない◆思うような実習ができていない◆ほかの人より勉強が遅れていると思う◆PCを使った授業が多く目が疲れる
- 2 バイト、金銭面 51.1%
◆バイトができず生活費が稼げない◆実習のためバイトができず生活が苦しい
- 3 友達やサークル 37.8%
◆外出が思うようにできずストレスが多い◆気分が沈む
- 4 生活 34.5%
◆今までのようなサークル活動ができない
- 5 家族 30.5%
◆実家が県外で帰省できない◆入院している家族の面会ができない
- 6 就職活動 22.0%
◆インターンが中止となり行けない◆行ったことがないまま就職試験を受けることが不安
- 7 健康 14.6%
- 8 遊び 1.2%

◆は、自由記述の一例です。



協力してくれた皆さん、ありがとうございます！
10月からやっと対面授業が始まりましたが、私たちがこの時代に合わせた大学生活を送っていきましょう！



コロナ禍における大学の現状について

看護学部長 平澤 則子

皆様、依然として収束が見込めないコロナ禍の中で、それぞれが感染対策に留意しながら日々の生活をお過ごしのことと思います。

本学では後期の授業も開始され、一部非常勤講師科目を除いて対面授業をしています。オンラインと対面を併用した前期授業に対する学生の評価は、「満足している」学生と「不満」な学生が半々でした。「不満」な理由は、「通信環境や通信費」「授業等での課題が多い」などがありました。学年クラスミーティングでは、学生から「友人に会えない・友人ができない」「大学の設備が使えない」といった意見がありました。

一方、毎年実施している学生生活実態調査から意外なことがわかりました。

「ここ1カ月の睡眠時間」は、全学年が5~7時間の睡眠がとれており、「朝食を食べる」学生も増えました。「ここ1カ月間の授業時間以外の学習時間」では、4年生の7割、3年生の6割が「3~5時間」と回答しましたが、1年生の6割、2年生の4割は「0~30分」でした。昨年に比べて、食事と睡眠習慣は改善しましたが、1~2年生の学習時間は昨年より短く、学習習慣が身につけていない可能性があります。後期は、このような課題解決に向けて授業改善と環境調整に取組んでいます。

学生は学内でクラスターを発生させないための行動制限を守っています。これからも看大生としての誇りをもって、今の状況を乗り越えてくれることを願っています。

コロナ禍における実習の今

実習委員長 石田 和子

コロナ禍での病棟実習に大きな影響を与えています。前期、大学の一斉休校により春に予定されていた総合実習は病院には行けず文部省の通達により代替特別措置としオンライン実習としました。上越地域の病院ではコロナウイルス拡大状況を見ながら基礎・領域別実習は学内演習と病棟実習が行われています。しかし、寒くなるにつれコロナウイルス拡大傾向にあり実習状況はどうなるのか一喜一憂している状況です。最後まで病棟に行けることを願っています。

各学年からの実習報告



1年

ふれあい実習

私たち1年生は10月5日から8日にかけてふれあい実習を行いました。私たちに大学生活で初めての実習で不安と期待がありました。新型コロナウイルス感染症の影響により例年のような実習を行うことができず、日帰りでの実習となってしまいました。各地域の方々との交流を通して多くのことを学ぶことができました。

私たちのグループはまちづくりの推進を図る活動を行っている団体へ訪問させていただきました。まちづくりの推進を図る活動の内容とその活動が人々にどのような影響を与えているのかを理解することを目標に、交流・お話を伺いました。実習当日は健康づくり教室が開かれており、参加者の皆様と一緒に身体を動かし、お話を伺うことができました。お話を伺ったところ、健康づくり教室のほかにも健康測定や地域のお祭りの主催などを行っており、この活動を生きがいに感じ、活動に参加することで健康を維持・増進されている方が多くいらっしゃるということが分かりました。

ふれあい実習では、人々の生活や価値観を知ることができました。これは、これから本格的になっていく講義や実習、そして看護職に就いてからも役に立つことであると感じました。この実習にご協力いただいた方々に感謝の気持ちを忘れずこれからも勉強に臨もうと思います。



3年

慢性・回復期に必要な成人看護

私は成人看護学の慢性・回復期看護実習を通して、慢性・回復期にある成人患者さんが、病気や障害を持ちながら退院後も地域で暮らし続けるためにどのような看護が必要であるかを学びました。

慢性・回復期にある成人患者さんは、病気や障害が悪化せず可能な限り通常の生活を送る事を目指しており、それを支援する看護が必要です。そのため看護師は、患者さんの病気の受け止め方や今後の生活への希望を理解し、それを尊重した関わりをします。また、確かな看護技術を持ってケアする事で、患者さんの不安を軽減します。そして、退院に向けたチーム医療を患者さん・家族を中心に展開する事で、質の高いケアを提供します。

今回の実習では、患者さんが病気をどのように受け止め、今後どのように暮らしていきたいかを把握して、それをケアに反映させる事が大切だと分かりました。また、状態安定後に段階的な看護目標を設定し、看護を実践する事に難しさを感じました。よって、対話を通じて患者さんの気持ちに寄り添い、不安や医療者へのニーズを理解する事、確かな看護技術で状態の安定化を図り、生活再構築に向けた段階的支援を計画・実施する事が今後の課題です。この実習で得た学びを、今後の看護展開に活かしていきます。



2年

基礎看護学実習Ⅱの学び

今回は、2日間の病棟実習と学内実習を行いました。病棟実習では、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、面会制限がされている中で、患者さんご家族も安心して生活が送れるよう、看護師はそれぞれの様子を伝える代弁者のような役割を果たしていると感じました。

学内実習では、事例を用いて情報収集から援助の計画・実施を行いました。アセスメントや看護計画の立案・実施では、疾患やケアに関する知識不足で苦戦した部分もありましたが、個別性のある看護ケアを行う上で、疾患に関する情報だけでなく、コミュニケーションによって得られる患者さんの精神面、社会面の情報の重要性に気付くことができました。チーム医療実習では、看護師と多職種との連携について知り、チーム医療を行うことの良さ、医療職者同士のチームワークの築き方、看護師は日々の観察、コミュニケーションを踏まえて、多職種の方々と患者さん・家族をつなげている「かけ橋的存在」であることを学びました。

今回の実習は、病棟実習の期間が短く、例年通りの実習を行うことはできなかったですが、このような状況の中、最前線で働きながら、実習を受け入れてくださり、多くのことを教えてくださった病院の皆さんにはとても感謝しています。来年度の領域別実習に向けて、今回学んだことをしっかり整理し、今後も学習を積み重ね、学びをより深めていきたいです。



4年

地域における保健師としての役割を学んだ公衆衛生看護学実習

私は、今年度の公衆衛生看護学実習において、個人の事例から集団のニーズを把握し、保健師として現存する社会資源を有効活用しながら、住民や対象者の問題解決力を向上させていくことの重要性について学びました。

保健所・市町村実習では、学生同士での健康相談や特定保健指導、健康教育の実施を行いました。地域診断の結果をもとに地区の特徴をとらえ、健康問題や住民のニーズを分析し、保健師としてどんな働きかけが必要なのか考えました。リモートでの健康教育の実施では、知識がない方でもわかりやすい言葉選びや表現が必要であり、住民の方が何でも相談しやすいと思ってもらえるような雰囲気づくりが重要であると学ぶことができました。

また、管理実習では、保健師さんだけではなく養護教諭の先生や産業看護職の方から、それぞれの分野における公衆衛生看護管理についてのお話を聞くことができました。どんな場においても多職種間や地域との連携とコミュニケーションが重要であり、対象者とその家族がともに健康的な生活を送ることができるように支援していくことが必要であると学びました。

卒業後から行政保健師として活動していこうと思っているので、住民の皆さんの主体的で健康的な生活を支援できるように、これらの多くの学びを生かしていきたいです。

**感染防止
対策の風景**

密防止を意識した行動ありがとう

- ◆ ソーシャルディスタンスを意識
- ◆ 密閉空間は気をつけて行いましょう

くわえぬ密閉空間で
うろたえない!!

大学で友達や先生と会う機会が失われなくなったため、実習が予定通りにすすむように…
行動できるあなたは素晴らしい!!
学校医 保健指導員 保健室保健師

指定された場所に
間隔をあけて座っています

学外者の方へ
令和2年10月1日(木)
より完全予約制・時間
短縮での利用を再開し
ます。

○必ず事前予約が必要です。
予約なしの実施はお断りさせていただきます。
○利用可能時間
平日 9:00~17:00
(17時以降と土曜日は利用できません)
詳しくは後期HPお知らせをご覧ください。

ソーシャルディスタンス

来客が多い事務室も
アクリルパーテーションで感染対策!

4 年 生 専 門 ゼ ミ ナ ー ル



4年

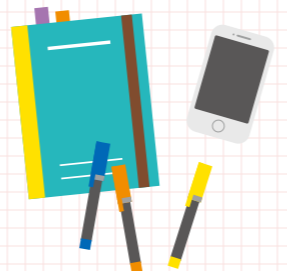
私は、3年次の領域別実習の際に、在宅看護論実習で出会った療養者さんとかかわりにおいて抱いた疑問について研究したいと思い、地域看護学ゼミナールへの所属を希望し、糖尿病を持つ在宅精神療養者に対する訪問看護師の指導について研究することを決めました。

研究を始めるにあたり、まず研究計画書を作成しました。自分が研究したいテーマをもとに、先行研究についてクリティックを行った上で、自分の研究を行うことの意義やその方法などを記述しました。今後行っていく研究がより意義を持ったものになるよう、何度も推敲を行いました。

私は、先行研究を整理しまとめていく文献研究を行いました。文献からコードを抽出した上でカテゴリ化の中で、多くの文献をまとめていく過程では、そのまとめ方について自分自身難しいと感じることもありましたが、ゼミナールの先生方やゼミ生からアドバイスをいただきながら進めることができました。

また、研究を進める中で行き詰まった時は、作成した研究計画書を振り返ることで研究の目的を再認識し、一貫した研究に努めることができました。

研究を行う過程において、ゼミナールの先生方やゼミ生には多くのサポートをいただき、本当に感謝しています。この専門ゼミナールでの学びを糧に、入職した後も成長し続けられるよう励んでいきたいと思えます。



卒業研究発表会は Zoomで開催しました



私は、大学での講義や保健師のインターンを通して、難病患者さんの災害対策について興味を持ちました。また、私は保健師を志望しており、研究を通して学んだことを将来に活かすことができると思い、地域ゼミを選択し、「難病患者の災害時の困難に関する文献検討」という研究を行うことにしました。

最初に、研究計画書を作成し、先行研究などから研究の背景を明らかにしたり、データ収集方法や分析方法などを決めることにより、研究の道筋を立てました。始めに、自分で計画書を作成してみましたが、分析方法などが曖昧で、自分がこれからどのように研究を進めていくのかイメージがつかせませんでした。しかし、先生方からのご指摘を受けて、自分が明らかにしたいことをはっきりさせることで、そのためにはどんな方法を用いたらいいのかを考えることができると学びました。

研究で採用する文献を選定する過程では、多くの文献を読んでいくと自分の中で文献の選定基準がぶれてしまい、選定に苦戦しました。そんな時は、一旦、研究計画書に立ち戻ることによって選定基準を再確認しました。また、ゼミの担当教員である高林先生に文献選定を手伝っていただき、研究の妥当性の確保に努めました。

研究を通して、難病と災害対策について今までの講義や実習では得られなかった知識を多く得ることができました。専門ゼミナールで得られた知識や学びをこれから保健師として働く際に活かしていきたいです。



4年

—自治会主催新潟県立看護大学大学祭—

「第19回 桜蓮祭」

今年は
オンライン
開催！

発憤興起 ~今できることを最大限に~

初めてのオンライン開催のため
たくさんの検討を重ねていきました

学内のオンライン「どこでもカレッジプロジェクト」に
大学祭専用のサイトを準備！



桜蓮祭イベントタイムスケジュール	
時間	企画内容
9:00~	開催にあたって
9:05~	吹奏楽
9:15~	合唱
9:30~	新型コロナウイルス感染症で影響を受けた"ところ"の語り場
10:30~	ダンス
11:00~	学生対抗ゲーム
12:00~	お昼休み
13:00~	リレーフォーライフジャパンにいがた
14:00~	助産師
14:30~	よさこい
14:45~	オレンジ
15:00~	ピンゴ大会
16:00~	閉会の挨拶

桜蓮祭を終えて



実行委員長
2年

今年度は例年とは異なり、学内の学生、教職員のみでのオンライン上での開催となりました。「発憤興起~今できることを最大限に~」というスローガンを掲げ、オンラインでできることの全てを行うことを胸に、実行委員一同準備、運営に励みました。

例年通りの桜蓮祭を行うことで、本学のサークル活動や団体活動を学外の地域の皆様が発信することができる良い機会であったのですが、今年度は地域の皆様をはじめとした学外の方々の参加を認めない方向にしてしまったので、本学の活動発表や地域への貢献等ができなかったことが心残りでありました。ですが、実行委員みんなで協力して、学生内でグループを作り、謎解きと大喜利を行う学生対抗ゲーム、80人以上が参加したピンゴ大会の企画を成功させることができました。特に学生対抗ゲームは、今年度ならではのZoomのグループワークの機能を使って行うことができたので、新しい企画として盛り上がることはできたのではないかと思います。また、教職員の企画として新型コロナウイルスによって環境が変わった今年ならではの心配や不安などを語り合う場を設けたり、がんについてクイズなどを使って楽しく勉強するといったことも実施しました。

これまでの桜蓮祭とは違う形であり、中止するか否かまで話に出ていたくらいに状態が当日まで不安でいっぱいだったのですが、楽しかったという声を多くいただきました。

来年こそは例年のように地域の方々との良き交流の場として、桜蓮祭を行えることを願っています。

研究室訪問

老年看護学 河原畑 尚美先生

今回は、どこかミステリアスな雰囲気のある河原畑先生の素顔に迫りたいと思います！

私は災害看護を専門にやってきたわけではないけれど、震災のときにその場にたまたま居合わせたから、やらなくてはならなかった。でも、その活動が自分の研究とか教育活動をつめなおす機会になったし、今振り返ってみれば、とても貴重な経験をさせてもらったと思います。

だから本学でも災害看護を担当されているんですね。



研究室にて

先生の専門性とか独自性をとても発揮できる分野だと思います。高齢者の人が病気になるって時間って、長寿社会の今はすごく長いじゃないですか。その間も良くなったり悪くなったりを繰り返すわけだけだと、その時のケアって看護の基本的なことをしっかりやることとか、そういった基本的な生活をきちんと整えること。看護の方法は、高齢者のこれまでの生き方や今の生活状況を手がかりに行う必要があるんです。実際には、標準的な方法ではなくていろいろのやりがいにつながっていますね。それがうまく合致したら、状態がすぐ変わるといえることはよくあります。今までできなかったことができるようになったりとか、その後の経過がすごくよくなることも珍しくないです。でも、反対にそこを急ぎすぎると悪くなるのは早いし死に至ってしまうこともあります。だから、基本的な看護をいかにきちんとやっていくって、

何でいうのかな、自分の看護を試さるでもあ



実習室で学生と

バレンちゃん



本当は、うさぎだけではなくて犬とかもね、動物をたくさん飼いたいと思っていて、それが今の夢です。上越は自然がいっぱいあって、今までに住んだ街の中では一番住みやすいところなので、この夢がいつか叶えられるといいなと思っています。

「老年看護は自分の看護が試される」という言葉がとても印象的でした。そして、老年看護と同じくらいうさぎへの熱い思い——すべての生命への愛が看護の基本であることを再認識できた時間でした。河原畑先生、どうもありがとうございました。

まずは、定番の質問から。老年看護学の専門家になった経緯を聞かせてください。

看護師として東京の大病院で十六年間勤務した後に進学した大学院で、現在の上司である小野先生のもとで老年看護学を改めて学び直しました。それまでは、老年看護を専門にして働いていたわけではないけれど、実践現場ではたくさんの高齢患者さんと関わってきました。大学院修了後に大学教員になったんですけど、最初は成人看護学の教員をしていました。その間もずっと、今までの自分の臨床経験を一番活かせるのは高齢者看護だと思っていました。小野先生の下で働きたいという気持ちもあって、老年看護学に落ち着いたという感じです。高齢者施設では働いた経験はないんですが、宮城で教員をしているときに東日本大震災に遭遇し、小野先生とともに一週間くらい施設に泊まり込んで働いたことがあります。実習でお世話になっていた施設のスタッフさんたちが被災して、避難所から通っている人もいて、みんな疲弊していました。勤務していた大学が一カ月間休みになったこともあって支援に行けたのですが、その後も、その近くにできた仮設住宅に住む人々への支援のために、学生たちとともに去年まで定期的に通っていました。

先生が考える老年看護の醍醐味とかやりがいって何ですか。

看護の専門性とか独自性をとても発揮できる分野だと思います。高齢者の人が病気になるって時間って、長寿社会の今はすごく長いじゃないですか。その間も良くなったり悪くなったりを繰り返すわけだけだと、その時のケアって看護の基本的なことをしっかりやることとか、そういった基本的な生活をきちんと整えること。看護の方法は、高齢者のこれまでの生き方や今の生活状況を手がかりに行う必要があるんです。実際には、標準的な方法ではなくていろいろのやりがいにつながっていますね。それがうまく合致したら、状態がすぐ変わるといえることはよくあります。今までできなかったことができるようになったりとか、その後の経過がすごくよくなることも珍しくないです。でも、反対にそこを急ぎすぎると悪くなるのは早いし死に至ってしまうこともあります。だから、基本的な看護をいかにきちんとやっていくって、

オープンキャンパス 2020



7/30~8/21、10/7~11/6(期間中合計330名が参加)にオンラインオープンキャンパス2020を開催しました。今年は、新型コロナウイルスの影響によりオンラインの開催となりましたが、動画配信やメールでの個別相談に加え、8/22(土)、8/23(日)はZoomを利用した個別相談も実施しました。



個別相談



施設紹介



授業の様子



在学生からのメッセージも配信

大学内で学んだ知識を、実践できる技術として習得することを目指します。

人数が少ない分男子学生の方が仲良くなれたり、絆が深まったりしている気がする

新任教員紹介



小児看護学 准教授 山田 恵子

皆さん、こんにちは。小児看護学領域教員の山田恵子です。私は直江津の生まれですが、19歳で名古屋の聖霊病院に就職し、看護師資格取得後も愛知県内の病院で看護師として働き結婚しました。現在は夫と高校3年生の長男と高校1年生の次男、実母の5人家族ですが、家族の支えの元、単身赴任で頑張っております。看護教員としての略歴は、28歳の時に夫の転勤で小田原市に引っ越したことをきっかけに看護専門学校で働くようになり、それから20年以上になりますが、看護専門学校、通信制看護学校、私立大学、短期大学大学設置準備室を経て、この9月から故郷の新潟県立看護大学の臨床看護学講座小児看護学領域の教員として着任させていただきました。研究者というよりは実践者として探求しながら開拓していくというタイプなので、研究が苦手なところが悩ましいところです。これまでの研究テーマとしては、保育施設における救急蘇生を含めた傷害予防教育支援、小児看護学におけるシミュレーション教育やARCS動機づけモデルなどを活用した教育方法の実践などがあります。これからは、地域に根差した活動として、健康障害や発達障害、医療的ケアを必要とする児と共に在る家族への支援や、引き続き、保育施設における事故予防教育や小中高校へのいのちの教育・がん教育活動など、生まれ故郷である地域のお役に立つ研究活動を、行政や教育機関、地域の方と共に進めていけるよう努力していきたいと思っています。



成人看護学 助教 高橋 絹代

7月1日より成人看護学の助教として着任させていただきました。出身は富山県です。高校卒業後に関東方面の看護専門学校を卒業し、救命救急センターや集中治療室、整形外科外来や病棟など、主に外科系で働き、富山に戻ってからは移植コーディネーターとして23年間勤務しました。そうした中、救急災害医学講座の教授のお誘いで、社会人大学院生として富山大学大学院修士課程と博士課程で学ぶ機会をいただき、今年の3月に修了しました。子育てと仕事、大学院生と3足の草鞋でした。博士課程での主査は精神科の先生で、言葉が優しく緊張しない雰囲気を作ってくださいました。副査の先生は、「僕たちは、君の論文がちゃんとできることをサポートするためにいるんだよ」と声を掛けてくださいました。看護学生時代から長い時間が経ち、改めて学生の立場に身を置いて学べた時間は楽しく、先生方には沢山の指導と励ましをいただきました。こうした経験を新潟県立看護大学の学生さんに向け、役立てていきたいと思っています。教員としては1年生で、至らない所だらけと思いますが、皆様に助けをいただきながら精進して参りたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。